

患者の不安をやわらげる クリニカルスキル



不安を抱える患者に対して何ができるか

外来へ来る患者さんは、自身の症状に対して不安を抱えていることが多いです。最近ではスマートフォンの普及もあり、インターネットで自身の症状を調べてから受診される方も多く、人によっては調べることでさらに不安が増していることもあります。また、検査や治療を受けることで不安だけでなく、病気や症状に対するつらさや怖さも重なり、絶望感や焦燥感をもつなど精神的に追い込まれる患者さんもいます。そのため、ドクターショッピングや通院の自己中断になったり、抑うつなどの精神症状を発症したり、過剰な不安から細かく質問責めをされる患者さんもいます。結果的に治療へ前向きに取り組むことができず、経過や予後に悪影響を与える可能性もあります。

では、こういった不安などをわれわれ医療者はどのように解消すればよいのでしょうか。今回の特集では、本人やその家族に対する病気や病名の伝え方、訴えられた不安などへの対応のしかた、障害のある方や小児への対応について、第一線で活躍されている先生方へクリニカルスキルをご紹介します。また、治療や検査を受ける際のリスクコミュニケーションや費用の説明のしかた、医師に言いにくいことやマイノリティの方への配慮についても、専門にされている先生にご執筆をお願いしています。さらには、患者さんやその家族の立場から医療面接におけるコツの解説や、患者さんの安心のための医療機関の取り組みなどを、「伝えるスキル」、「診るスキル」、「やわらげるスキル」に分けて紹介しています。本特集が先生方の診療の一助となれば幸いです。

〔編集幹事〕多摩ファミリークリニック

高木 暢

多摩ファミリークリニック

大橋博樹